

学校教育目標	知性・自律・健全 ～世界へ・未来へ～
目指す学校像	学びあい、支えあう、力強く生きる力をはぐくむ学校
重点目標	1 いきいきとした学びを支える教育活動を実践する。 2 生徒一人ひとりのWell-beingを実現する教育実践を推進する。 3 学校・家庭・地域との結びつきを深め、共に生徒を育む体制づくりを行う。 4 安全な学校生活環境を常に整え、維持・管理を行う。 5 教師の資質向上を図り「チーム学校」の一員として生徒と共に歩む教師を育成する。

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和8年2月16日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○全体的に意欲的な態度で授業に臨み、学習課題に興味・関心をもって取組ができています。 ○協働的な学びを心掛け、仲間と積極的に取り組む生徒が多い。 ○全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査結果は、各教科とも概ね平均的であり、平均を上回り良好なものもある。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査の結果から言語の使い方や言語文化理解に課題が見られる。 ○物事の深い考え方や応用的な活用に粘り強く取り組むことを苦手とする面が見られる。	・深い学びを実感できる授業実践 ・豊かな言語環境の整備とICTの効果的な活用	①各学年の「STEAMS TIME」において、課題解決学習・教科等横断的な学習活動を実施し、カリキュラム・マネジメントの視点を重視した学習活動を展開する。 ②日頃の授業で自己決定の場面を設定し、多様な見方・考え方を表出することができる力の育成をねらい、学力向上に向けた取組を実践する。	①学校評価において生徒が「各教科・STEAMS TIMEで探究学習を進められたか」の項目の数値が昨年度よりも向上しているか。 ②各教科の特性を生かしながら、自己決定の場を設定して生徒の多様な考えを引き出し、全教職員で学力向上に向けた取組を行うことができたか。	①各学年の「STEAMS TIME」では、ねらいを明確に設定し、カリキュラム・マネジメントを行い、教科等横断的な学習を今まで以上に意識した。学校評価での数値も昨年度肯定的回答93%から96%に向上した。 ②全教職員が今年度の自己評価シートの目標に学力向上のための工夫した取組を設定し、教科の特性を生かした指導を行うよう尽力した。	B	○「STEAMS TIME」を主軸としたカリマネデザインマップの作成等とおして、学びの関連性を掴み、探求学習に取り組めた成果はあったが、全体の学力向上として数値には反映されなかったため、引き続き生徒の実態に即した効果的な指導の在り方を各教科で模索し、実践していく。	・「STEAMS TIME」の取組では、自己決定の場が作られていてよいと感じた。社会に出た時の構造を理解しておくことで、荒波の中でも対処がしやすくなるであろう。 ・全教職員が教科の特性に応じた工夫・改善に努めているところがよい。 ・言語環境は、学級図書を置いたり、貸出日を決めたりすることで読書活動をさらに推進してほしい。
		・学習習慣の定着を図る家庭学習の実践 ・生徒の心を支える取組による充実した教育活動の実践	①「実のチャレ」において、効果的かつ持続可能な取組とするために、生徒の実態に即し、課題や評価の方法を工夫する。 ②カリキュラム・マネジメントと照らし合わせ、授業の深化・補充を行える取組とする。	①全国や市の学力状況調査等から言語に関する数値が向上しているか。 ②「学びの指標」ICTの効果的な活用項目で市平均を上回っているか。	①全国学力学習状況調査では言語に関する数値には引き続き課題が見られた。 ②「学びの指標」ICT活用は市平均を0.06pt上回った。	B	○各教科における言語活動をより一層重視し、読書活動の推進に努め、言語の使い方・読解力の向上に努める。ICT活用もさらに推進する。	
2	〈現状〉 ○生徒の基礎学力向上を狙った「実のチャレ」が生徒・保護者に周知され、家庭学習を支える手段として継続して行われている。 ○教育支援体制の充実により、生徒一人ひとりの状況を踏まえた支援を行っている。 〈課題〉 ○家庭学習の取組状況が生徒によって差が大きく、「実のチャレ」の取組効果が出ていない生徒が見られる。 ○全生徒が安心して学校生活が送れるよう、学習支援体制の周知や教育相談の効果的な実施を一層推進が求められる。	・学習習慣の定着を図る家庭学習の実践 ・生徒の心を支える取組による充実した教育活動の実践	①「実のチャレ」において、効果的かつ持続可能な取組とするために、生徒の実態に即し、課題や評価の方法を工夫する。 ②カリキュラム・マネジメントと照らし合わせ、授業の深化・補充を行える取組とする。	①学校評価での生徒アンケート「家庭学習をよくやっているか」の数値が昨年度よりも向上しているか。 ②「実のチャレ」の取組の工夫が行われ学校評価での生徒アンケート「授業が分かりやすく楽しい」の数値が昨年度よりも向上しているか。	①家庭学習においては生徒の学校評価において、昨年度肯定的回答が62%から68%に向上した。生徒自身も学力向上を願う声が上がっており、「実のチャレ」が啖咳同時な取組となっている。 ②「授業が分かりやすく楽しい」が89%から93%に向上した。	A	○「実のチャレ」の取組を各学年の発達段階、実態に即した工夫を取り入れるなどして、さらなる家庭学習の充実につなげていく。 ○教員の更なる授業力の向上とカリマネに基づく教科等横断的な学習を充実させ分かりやすい授業を展開する。	・家庭学習の取組が結果に繋がりが一つある事が素晴らしい。自主的な取組を推進することは永遠の命題であると捉えている。自主的に学ぶことの本質を理解させ、キャリア教育の工夫をすることも重要。 ・「授業が分かりやすい」という声も先生方の授業改善の成果と考える。 ・先生方のきめ細やかな指導に恐縮する。色々な試みに努力の様子が見える。
		・生徒の心を支える取組による充実した教育活動の実践	①教職員とさわやか相談員やSC等の専門職が連携し、関係機関の協力も仰ぎ、組織的な教育相談体制を構築する。 ②solaの一むの学習環境を整え、よりよい学びの場とする。	①生徒指導委員会や教育相談部会で建設的な意見が出され、実践に移すことができたか。 ②solaの一むを利用する生徒の満足度を高水準とすることができたか。(85%以上)	①学校全体で組織的に取り組む生徒指導・教育相談活動が展開できた。各部会では具体的な方策が検討され、それに基づいた支援や指導が行えた。 ②solaの一むの常時利用が最少人数であったが、満足度は高い評価を得た。	B	○よりきめ細やかに生徒支援を行い、日々の関わりを大切に学校が生徒にとって安全で安心な居場所となるよう、全職員で意識を持って取り組んでいく。Solaの一むの教員配置を継続し、solaの一む主任を中心に経営体制を構築する。	
3	〈現状〉 ○学校運営協議会に生徒会本部役員が参加して、取組の方向性提案を行った。 ○昨年度より、デジタルを活用した保護者への情報提供を行っている。 〈課題〉 ○学校運営協議会のさらなる充実を図り、学校・家庭・地域に取組を周知し、協働に繋げたい。 ○情報セキュリティに留意しながら、学校での生徒の活動等の情報提供・情報共有を行いたい。	・生徒を加えた学校運営協議会の取組の実践 ・活きた情報提供を念頭に置いた情報発信	①学校運営協議会において、生徒の「防スポ」の取組状況を周知し、共に「美園中地区の防災」の取組を見出す熟議を行う。 ②地域防災訓練で上記①を反映させる。	①生徒が学校運営協議会に参加し、生徒会が主体となった取組を基に、地域と共に防災の取組につながる熟議ができたか。 ②地域防災訓練に反映できたか。	①②学校運営協議会では、生徒会役員が「防スポ」の取組状況を説明し、10月に開催された避難所開設訓練での地域の方を交えた訓練の報告を行った。また熟議にも参加し安全な通学路の確保等、共に考えた。	A	○「防スポ」のさらなる発展として、本来の目的を再確認し、有事の際は生徒が安全に気を付けながら、地域や家庭でできる支援行動がとれるよう、生徒会を中心として取り組む。	・地域の様々な資源を活用し協力し合うことから、学校側だけでなく地域の方たちも「学校・生徒に貢献している」というポジティブな思考になる。継続することで大きな学校資源になると感じた。 ・積極的に情報発信しようという姿勢がよい。
		・活きた情報提供を念頭に置いた情報発信	①「スクリレ」を活用し、各種便り等だけでなく、学校教育活動の様子を周知したり、様々な情報を共有したりしていく。	①保護者に教育活動での情報提供をタイムリーに行うことができたか、必要な情報が入手でき教育活動の理解に繋がったか。	①「スクリレ」を活用し、個人情報の取扱いに留意しながら、生きた情報の提供ができた。学校評価でも概ね好評であった。	B	○「サギボワ今日も行く」は月3回発行してきたが、改良を望む声もあるため、より見やすくしていく。	
4	〈現状〉 ○学校運営協議会で通学路の安全確保の課題への意見から「通学路安全検討委員会」を行った。 ○自転車登校への安全指導が様々行えている。 〈課題〉 ○経年から施設の老朽化対応、樹木管理が求められている。 ○形骸化することのない安全指導と、生徒の増加を見据えた安全管理の推進が求められている。	・学校教育環境の安全整備の実施 ・学校・保護者・地域で行う安全な登下校対策	①日々の安全確認の実施と毎月全校で行う安全点検の結果を基に、即時対応・早期対応による修繕を実施する。	①学校評価により保護者「安心・安全な指導」の数値を昨年度より向上させられたか。	①日々の目視確認や安全点検による安全管理は予定通り行えた。保護者学校評価「安心・安心に係る教育活動」の数値も昨年度より向上した。	A	○来年度は学級増が想定されるため、生徒数が増えても、安全担当、学校事務を中心として安全な教育活動が遂行できるようにする。	・「見守り」は継続が大事である。PTAとして警備の協力はさらにできるので連携を図ればと思う。 ・交通安全指導の充実が評価できる。保護者、地域、行政との連携が一層必要になると感じている。
		・学校・保護者・地域で行う安全な登下校対策	①引き続きPTA、地域等による「通学路安全検討委員会」を開催し、生徒の増加に対応する議論を行う。 ②安全担当を中心として生徒と共に築く安全対策を実践する。	①「通学路安全検討委員会」を開催し有用な意見を得ることができたか。 ②生徒会や生徒安全委員会が中心となった取組が実施できたか。	①「通学路安全検討委員会」としては開催しなかったが学校運営協議会やPTA本部等と意見交換や今後の見通しを協議した。 ②安全担当、安全委員が軸となった日々の安全活動が適切に展開された。	B	○交通安全教室や学期毎の安全担当による講話は引き続き回数多く実践していく。同時に登下校の事故防止にむけた工夫ある取組を実践し、安全に対して万全の対策を期す。	
5	〈現状〉 ○若手の教職員が多く、仕事に前向きに当たり、教師としての資質向上に努めようとしている。 ○校内研修では、教科指導のみならず様々な対応に資する内容について実施してきた。 ○働き方改革の意識をもって能率的に業務を行っている。 〈課題〉 ○日頃の業務に時間を割くため、自身が希望する研修を受けられていない教職員もいる。 ○ICT活用や業務改善を図り、一層の働き方改革が求められる。	・「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」の推進 ・ICTの効果的な活用と業務改善の実施	①教職員へ研修履歴を活用した受講奨励を進め、研究発表会や研修会への参加を積極的に促し、資質向上を図る。 ②校内研修の充実を図り、学校課題や教育実践を推進するための資質能力をキャリア段階に応じて行えるようにする。	①教職員が、当初面談時に計画した研修に取り組み、資質向上に努めることができたか。 ②教職員アンケート「自身の資質向上の取組状況」の肯定的回答を向上させる。	①年度当初に目指す学校像にもある「学びあい」の説明を行い、研修を推進した。取組状況を確認したところ、概ね予定通り自身の決めた研修に参加し、手ごたえを感じていた。校内研修も効率化を図った。 ②自身の資質向上の取組では、肯定的回答が多く、自己研鑽に努めたことが分かった。	A	○今後は、学校に講師を招聘して行う研修も充実を図り、研修履歴に位置付けることで、自身の振り返りや事後の活用に活かせるようにする。 ○校内研修の内容を職員の要望や実態に応じたものを取り入れ、有効性をさらに高めていく。	・アンケート結果からも成果が出ていると考える。「共に育む」という理念は教育現場として同じ考えである。 ・教師が学んできたことをどう生徒に伝えるか。「熱量とタイミング」が大切だと思う。分かりやすく、丁寧な指導をお願いしたい。 ・今後も、未来を支える子どもたちの育成に尽力して欲しい。
		・ICTの効果的な活用と業務改善の実施	①ICTの活用により、ペーパーレスを推進するなど、業務改善に繋がるとともに、業務の正確性を高め、働き方改革に繋げる。	①ICT活用を推進して実行できたものがどれだけあり、業務改善に活かすことができ、時間的余裕や生産性につながる取組ができたか。	①日々の日報や教職員相互の連絡をデータ配信することにより、ペーパーレス化や費用削減、確実に保護者に情報を届ける等多くの成果があった。生徒アンケートや動画配信でもICT活用ができた。	B	○今後は効率や量だけでなく、質の向上やさらなる有効的な活用を目指してICT活用に取り組んでいく。 ○セキュリティ対策を教職員全員で理解・共有し、安全な活用に努める。	

